

## 本県における牛トロウイルスの初分離事例と浸潤状況

### 【目的】

近年、下痢を起こす牛トロウイルスの存在が報告されています。本県で牛トロウイルス（BoTV）の初発事例が確認されたことから、県内の浸潤状況と農場内の動態把握を目的に調査を行いました。

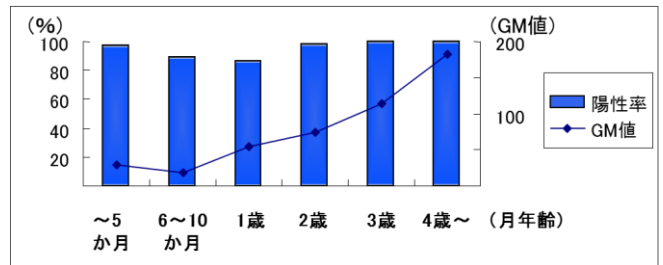
### 【成績の概要】

#### 1 県内初の確認事例

2010年11月、肉牛繁殖農場で4～8か月齢の育成牛が茶褐色の泥状ないし水様の下痢症状を呈しました。糞便からBoTVとA群ロタウイルスが分離され、混合して発症したものと診断しました。

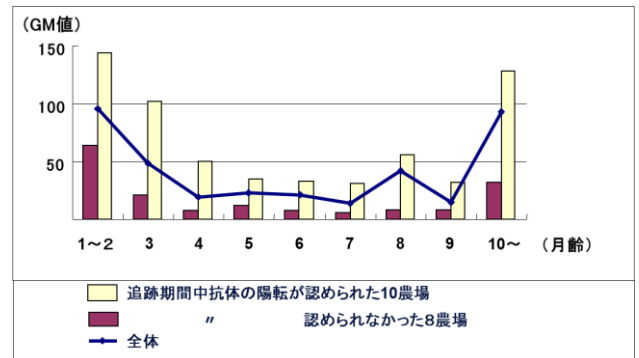
#### 2 浸潤状況調査

県全域88農場455頭の血清を用いて抗体検査を実施したところ、陰性はわずか1農場のみで、どの月齢においても抗体が認められ極めて高く浸潤していることがわかりました。抗体価の平均値（GM値）は加齢にしたがい上昇する傾向を示しました（図1）。



#### 3 農場内の動態調査

5農場の成牛各10頭を一年間追跡したところ、各農場2～10頭に有意な抗体上昇（ウイルス動態）があり、特に冬期（3月）に多数認められましたが、臨床的に下痢は認められませんでした。移行抗体の消長を把握するための育成牛を追跡した成績では、移行抗体がおよそ4か月齢で低下し、10か月齢以降に野外感染抗体が現れました。（図2）



### 【成績の活用】

育成期の下痢症対策

### 【留意事項・備考】

本病発症の誘発となる要因（寒冷感作、他の病原体の感染）について、さらに検討が必要であると考えられます。